

## 2013年度自己点検・評価結果

全学点検評価委員会

委員長（学長） G.W.バークレー

本学では、自己点検・評価活動を推進するため、2013年度に「目標設定シート」を作成しました。

この度、「目標設定シート」を利用した初めての「2013年度自己点検・評価結果」をまとめましたので、ご報告いたします。「目標設定シート」と併せて学内外に公開します。お気づきの点がありましたら、ご意見をお寄せください。

なお、目標設定シートは、一部を学外に公開いたします。ご了承ください。

## 【学部・研究科】

大学基準	総評
1. 理念・目的	<p>本学の各学部・学科・専攻及び大学院研究科では、『大学学則』、『大学院学則』及び『法務研究科学則』に、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、大学が追求すべき目的を踏まえて設定されており、その方向性も明確である。設定されている理念・目的は、学則、各種の学生対象の便覧、ホームページ等で公開されている。</p> <p>また、理念・目的の適切性を検証する責任主体・組織、権限、手続を西南学院大学自己点検・評価規程及び西南学院大学自己点検・評価規程細則に規定して、当該規程に則ってその適切性を検証し、問題点の改善に努めている。</p>
3. 教員・ 教員組織	<p>教員の資格要件及び能力資質、組織的な教育を実施する上での役割分担、責任の所在に関しては、規程に明記されている。また、教員の資質向上を図るための研修等の実施、教員の研究業績の評価も適正である。さらに、教員組織の適切性を検証する責任主体・組織、権限、手続を西南学院大学自己点検・評価規程及び西南学院大学自己点検・評価規程細則に規定して、当該規程に則ってその適切性を検証し、問題点の改善に努めている。</p> <p>『教員像』、『教員組織の編制方針』、『教員の募集・採用・昇格に関する基準・手続』等は更に整備する必要がある。また、教育成果を評価し、奨励するための規程も整備する必要がある。</p>

大学基準	総評
4. 教育内容 ・方法・成果	<p>三つのポリシーが設定され、公的な刊行物等によって公表されている。これらのポリシーに則って教育課程が編成され、学生への周知、指導が行われている。学士課程における順次性・体系的に配慮した教育課程、前期博士課程におけるコースワークとリサーチワークを組合わせた教育、専門職学位課程における理論教育と実務教育を組合わせた教育も適正である。各課程における教育内容・方法・成果等も適正であり、教育内容・方法・成果の適切性を検証する責任主体・組織、権限、手続を西南学院大学自己点検・評価規程及び西南学院大学自己点検・評価規程細則に規定して、当該規程に則ってその適切性を検証し、問題点の改善に努めている。</p> <p>修士・博士課程における『研究指導計画』『論文作成ガイドライン』『学位論文審査基準』は、今後も整備が必要であり、学士課程においては、『学修成果を評価するための評価指標』の開発が課題である。</p>
5. 学生の受入れ	<p>学生の受入方針を定めて、適正な募集広報・周知方法を経て、各種の選抜方法によって学生を受け入れている。学士課程においては、適正に定員を管理されているが、修士・博士課程、専門職学位課程においては、今後の適正化が課題である。学生の受入れの適切性を検証する責任主体・組織、権限、手続を西南学院大学自己点検・評価規程及び西南学院大学自己点検・評価規程細則に規定して、当該規程に則ってその適切性を検証し、問題点の改善に努めている。</p>
7. 教育研究環境	<p>学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を定めて、環境整備が進められている。施設・設備、研究のための資金、所定の規程等も適正である。また、教育研究環境の適切性を検証する責任主体・組織、権限、手続を西南学院大学自己点検・評価規程及び西南学院大学自己点検・評価規程細則に規定して、当該規程に則ってその適切性を検証し、問題点の改善に努めている。</p>

※大学基準…大学基準協会が定める大学基準

【部局・センター】

大学基準	総評
1. 理念・目的	<p>本学の理念・目的を、ホームページや『学生便覧』などに掲載し、学生・教職員、学外に周知・公表している。特に、本学の歴史や建学の精神の理解を目的として開講している「西南学院史」の授業は、毎年、一定の受講者数を確保し、理念・目的の浸透に効果を挙げている。</p>
2. 教育研究組織	<p>学長の諮問機関等を設置し、本学の理念・目的を実現するためにふさわしい教育研究組織の新設・改編について検討を進めている。2013年度は新設・改編の実績はない。</p>
5. 学生の受入れ	<p>本学大学院進学を希望する学生を対象に、2014年度から一部の学部・学科・専攻で早期卒業制度を導入することを決定した。これにより、大学院および法科大学院への進学者を確保し、適正な在籍学生数比率に近づけることが課題である。</p>
6. 学生支援	<p>学生の生活支援、修学支援などについて、より具体的に推進するための方針を定め、教職員で共有することが課題である。また、より効果的なキャリア支援を実施できるようキャリア教育を正課科目として実現することが課題である。一方で、保健管理室および学生相談室は、心身の健康保持・増進などへの実績を上げている。</p>
7. 教育研究環境	<p>大学キャンパスグランドデザインに基づき、施設・設備の整備を進めている。2016年度に新図書館を建設することが決定し、ラーニングコモنزの設置などを検討している。</p> <p>安全・衛生、危機管理などについては、関連規程に則って体制を整備し適正に管理している。</p>
8. 社会連携 ・社会貢献	<p>西南コミュニティーセンターおよび子どもプラザは、利用者が増え、本学の地域連携と社会貢献に効果を挙げている。また、ボランティアセンターを中心とした社会貢献事業も恒常的に行われている。</p> <p>2013年度に新たに設置した校友課により、校友行政の充実、同窓生との連携をさらに広げる必要がある。</p>
9. 管理運営 ・財務	<p>管理運営規程に則り、適切に意思決定が行われている。より迅速かつ的確に意思決定できる組織・制度を整備することが課題である。</p> <p>財務面では、第12次財政計画を策定した。課題は、本学の運営に適した財務関係比率を設定し、自己点検・評価する指標・方策を示すことである。</p> <p>また、現在、学校法人には「21世紀の西南学院」、大学には「学長の所信表明」という将来の方針を示した2本の資料がある。当該資料の小項目や内容は、関連、重複している事項が少なくないため、進捗管理を効率的に行うために、統合した資料を作成し、この資料を「中・長期の教育・研究計画」として位置付けることが課題である。</p>
10. 内部質保証	<p>2013年度は目標設定シートを作成し、新たな自己点検・評価活動をした。今後は、自己点検・評価に基づき、確実な改善・改革活動につなげていくことが課題である。</p>

※大学基準…大学基準協会が定める大学基準